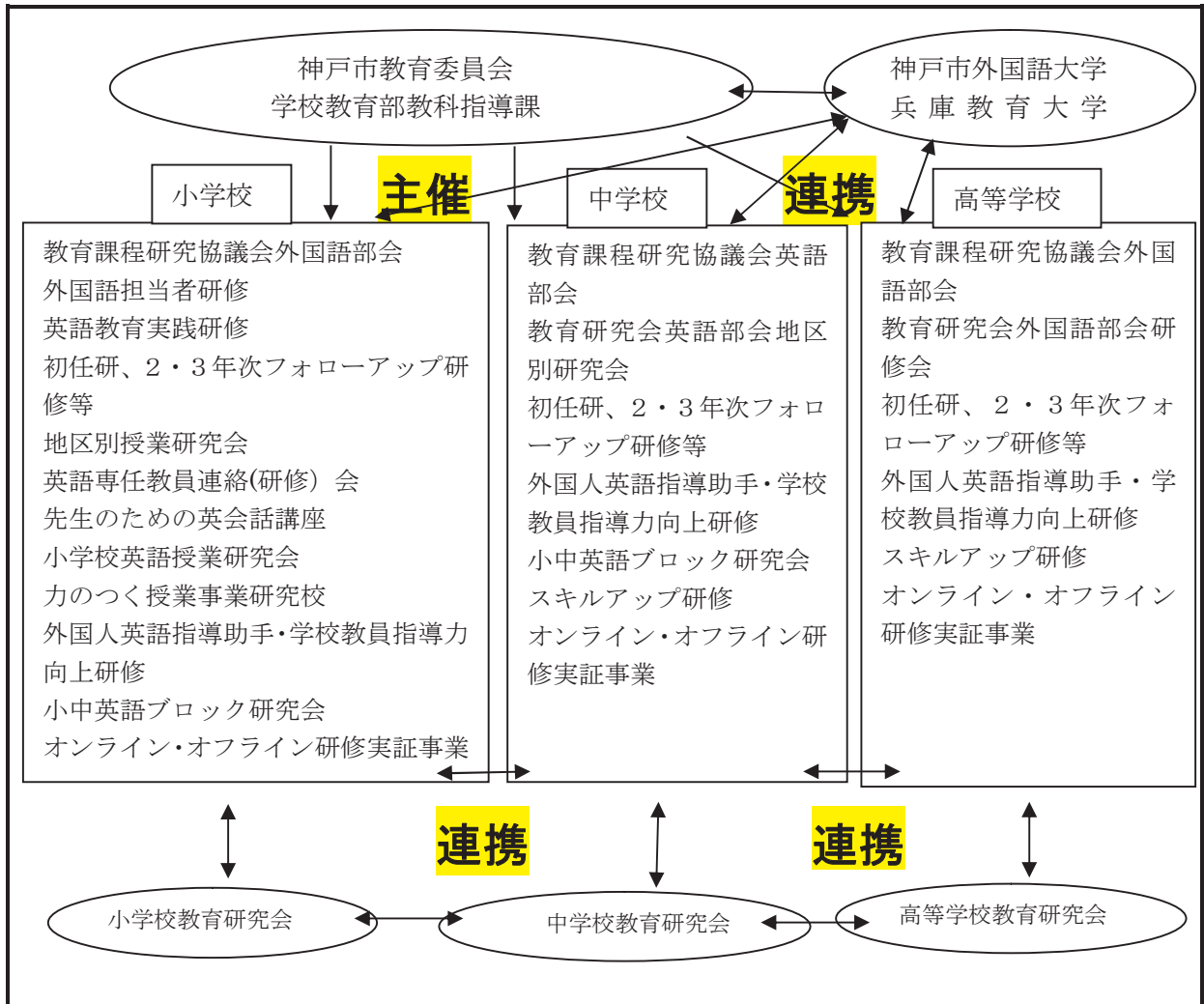


神戸市英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

(1) 高等学校における現状と課題

<課題>

- ・英語を用いた統合的な言語活動を行うことにより、学習内容を定着させるとともに、学習の深化・高度化を図ること。
- ・中学校の学習内容を理解し、高等学校の学習に生かすこと。
- ・授業において「英語を用いて何ができるようになるか」を意識して学習に取り組むこと。

【R1年度主な状況】

指標内容	R1 (実績)	指標内容	R1 (実績)
求められる英語力を有する生徒の割合	54.5%	求められる英語力を有する英語担当教員の割合	81.9%
生徒の英語による言語活動時間の割合 (50%以上)	69.4%	英語担当教員の英語使用状況 (50%以上)	67.8%

<R2年度改善方策及び目標>

1. 実際的な場面設定による統合的な言語活動の充実

より実際的なコミュニケーションの場面を設定し、「読んで 考えて まとめながら 書

く」活動などを取り入れるとともに、「話し合う 発表する」などの言語活動の機会を充実させ、学びを深めさせる。特に「話すこと」「書くこと」の能力の向上を意図した統合的な言語活動を工夫する。

2. 中学校との「学びの接続」の実践

中学校や高等学校での学習内容に繰り返し触れることのできる様々な言語使用場面を設け、活用を通して学習内容の理解・定着が図れるよう配慮する。

3. 指導と評価の一体化

「英語を用いて何ができるようになるか」という学習到達目標を CAN-DO リストの形で設定し、教員間で共有することで、指導・評価方法の改善に役立てる。

【目標となる指標】

項目	2018	2019	2020	2021	2022
求められる英語力を有する生徒	46.3%	54.5%	55%	55%	55%
生徒の英語による言語活動時間の割合 (50%以上)	53.1%	69.4%	80%	80%	80%
求められる英語力を有する英語担当教員の割合	53.3%	81.9%	80%	80%	80%
英語担当教員の英語使用状況 (50%以上)	57.8%	67.8%	80%	80%	80%

(2) 中学校における現状と課題

<課題>

- ・まとまりのある英文を聞いたり読んだりして、必要な情報を整理し理解する。それをもとに自らの意見や考えを表現するなど、他の言語活動につなげる。
- ・授業において、「英語を用いて何ができるようになるか」を意識して学習に取り組むこと。
- ・授業は英語で行うことを基本とすること。
- ・小学校の学習内容を理解し、中学校の学習に生かすこと。

【R1年度主な状況】

指標内容	R1 (実績)	指標内容	R1 (実績)
求められる英語力を有する生徒の割合	50.1%	求められる英語力を有する英語担当教員の割合	39.2%
生徒の英語による言語活動時間の割合 (50%以上)	67.7%	英語担当教員の英語使用状況 (50%以上)	59.8%

<R2年度改善方策及び目標>

1. 4技能を統合した言語活動の充実

使用場面を設定した言語活動の中で、学習した内容を繰り返し活用することによって定着を図る。聞いたり、読んだりしたことについて、話す・書くなど、統合的な言語活動につなげていくために、授業形態の工夫を行う。

2. 学習到達目標を CAN-DO リストの形式で設定

各単元においても「英語を用いて何ができるようになるか」という学習到達目標を CAN-DO リストの形で設定し、教員間で共有することで、指導・評価方法の改善に役立てる。

3. 英語による授業

英語を用いた言語活動の環境を作るうえでも、授業は英語で行うことを基本とする。

【目標となる指標】

項目	2018	2019	2020	2021	2022
求められる英語力を有する生徒	31.5%	50.1%	55%	55%	55%
生徒の英語による言語活動時間の割合（50%以上）	76.4%	67.7%	80%	80%	80%
求められる英語力を有する英語担当教員の割合	32.7%	39.2%	50%	50%	50%
英語担当教員の英語使用状況（50%以上）	60.3%	59.8%	80%	80%	80%

(3) 小学校における現状と課題

<現状>

- ・神戸市外国語大学と連携して外国語研修を実施（2日間）（H20～各校1名以上参加）平成30年度からは、新学習指導要領実施に向け、より実践的な内容へ改編し継続
- ・指導力及び英語力向上の研修を複数実施
- ・パフォーマンス評価（スピーキングチャレンジ）を作成、試行実施
- ・担任が中心となって外国語授業を進めることを基本としている。
- ・英語専科教員の配置や教科担任制による英語授業の推進を実施
（英語専科教員30名57校に配置・教科担任制による指導9名8校）
- ・教員採用においては、小学校で英語教育を推進できる教員を積極的に確保するため平成29年度実施の教員採用試験から、新たな選考区分である「小学校英語コース」を設置した。令和2年度からの小学校英語の本格実施を見据え、段階的に英語教育を推進できる教員を拡充してきた。具体的には、平成30年度実施の教員採用試験からは、全ての小学校教諭志願者に対し、専門教科の筆記試験で英語を出題している。また、本市における英語教育の推進役となる「小学校英語コース」の志願者に対しては、実技試験を実施し、英語の運用能力を確認し、実践的な指導力をもつ人材の確保に努めている。

(H29 7名、H30 11名、R1 7名)

【R1年度主な状況】

項目	2019(実績)	
小学校教師の英語免許状所有の状況	4.5%	183/4,071
小学校教師の英語力の状況(CEFR B2以上)	1.2%	50/4,071
小学校新規採用者に占める英語力の状況	12.4%	26/210

<課題>

- ・ALT（令和2年度大幅増員予定）との協働授業をより効果的に実施していく必要。
- ・令和2年度からの教科化における評価方法について、パフォーマンス評価の全校実施に向けた研修や授業中での見取り、ワークシートやペーパーテストの活用と評価等について研究。
- ・小学校教師に占める英語免許所有及び英語力の状況については、決して高いとは言えないため、新規採用者等において、英語力を有する教員の確保と育成が必要。

<令和2年度改善方策及び目標>

英語教育推進リーダーを活用した研修や神戸市外国語大学と連携した研修等を活用し、教員の指導力向上と新学習指導要領を踏まえた授業実践の普及に努め、教科化における評価とALTとの効果的な協働授業について研究及び研修を推進する。

1. 研究協力校や英語教育推進リーダーを中心とした評価の研究と発信

授業の中での5領域3観点の見取り場面や方法（形成的評価、記録に残す評価）、単元前半のスマールトークや単元終末のやり取りや発表など、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」を鍛える場面の設定と評価などについて研究し、発信する。

2. 英語専科教員の配置と活用と新規採用者に占める一定の英語力を有する教員の割合の向上

専科教員による授業公開や教材の共有を通して神戸市全体の小学校英語指導力向上を目指す。

【目標となる指標】

項目	2019(実績)	2020	2021	2022
小学校新規採用者に占める英語力の状況	12.4%	25%	32.7%	36.4%

3. A L Tと連携した英語指導力及び英語力向上に向けた研修の実施

小学校外国語授業の全てをA L Tとの協働授業で実施することを計画している。担任または英語専科教員が主導しながら、A L Tを効果的に活用する授業展開について、各校の外国語担当者、英語教育中核教員、英語専科教員等を対象に研修を行い、各校で広める。

①小学校の授業をすべてA L Tとの協働授業で実施

②1・2年生にもA L Tとの協働授業による英語に親しむ授業を実施

③A L Tを活用した「聞くこと」「話すこと」の評価「スピーキングチャレンジ」の実施

④授業以外での活用（A L Tを複数派遣する国際理解プログラム「デリバリーサービス」、校外学習「イングリッシュキャンプ」の実施（校内で実施も可））

4. 神戸市外国語大学教授及び英語教育推進リーダーを講師とした研修の充実

毎年、夏季休業中の「英語教育実践研修」において、教科化における評価場面の事例やA L Tとの効果的な協働授業の展開についての実践的な研修を実施する。

(3) 研修の体系と内容の具体

1 実施研修

(1) 研究協力校における公開授業及び研究協議会等の実施（小中学校）

①趣旨

新たな研究推進校を募集し、小中連携や評価の研究を実施する。授業公開や研究会、資料の共有等を通して、市内全域に研修成果の普及を図る。

②研究協力校（市内小学校、中学校を予定）

③対象者 神戸市内の小・中学校外国語及び英語科教員

④実施回数 5回（研究会本番に向けた指導案検討等含む）

⑤具体的な研究内容

- ・公開授業、研究授業（神戸市外国語大学教授による指導助言）
- ・小学校で採択された教科書と中学校で採択される教科書の関連性や発展性、評価規準について研究推進校の担当者中心に、中学校研究部と小学校研究部の協力を得ながら進める。（中学校教科書採択後の9月以降）
- ・スピーキングチャレンジ（A L Tを活用した「聞く」「話す」のパフォーマンス評価）の実施と成果と課題を踏まえた改編
- ・低学年における英語授業の研究
- ・イングリッシュキャンプ（A L Tと1日を英語で過ごす校外学習）の推進
- ・外部連携機関を活用した国際交流プログラム

(2) 小学校外国語活動・外国語担当者研修会（小学校）

①趣旨 本市の新しい英語教育指導体制に対応し、ALTとの効果的な協働授業や低学年から英語に慣れ親しむ授業の実践演習を通して、情報共有と指導力向上を図る。

②対象者 小学校教員

③期 日 7月28日（火）教育課程研究協議会（情報共有）
11月26日（木）小学校外国語担当者会（指導力向上）

④主な研修内容

- ・新学習指導要領における外国語授業の進め方と評価
- ・ALTとの打ち合わせと協働授業（評価）
- ・情報共有と実践演習
- ・各校での周知に向けて

⑤研修会参加者へのアンケート評価等により評価する。

(3) 神戸市外国語大学と連携した研修会「小学校英語教育実践研修」（小学校）

①趣旨 文部科学省新教材を活用しながら、新学習指導要領の外国語教育に関する講義及び実践的演習を通して、小学校教員の指導力向上をめざす。

②対象者 小学校教員

③期 日 8月20日（木）、21日（金）

④主な研修内容

午前は講演・概論（神戸市外国語大学教授）、午後は教科書を活用した実践的内容の研修外国語教育の質の向上を目指す。午後の講師は、神戸市外国語大学教授に加え、英語教育推進リーダーが担当する。

⑤研修の評価方法

研修会の参加人数、参加者のアンケート

(4) 外国語指導助手を対象とした研修の実施（ALT、小中高）

①趣旨

外国青年招致事業、及び神戸英語指導助手事業による外国人英語指導助手（ALT）に対し、効果的な語学指導、英語活動ができるよう必要な知識・指導技術等の研修を行う。また、授業改善のための諸活動及び効果的な教材の開発について研究活動を行い、本市の英語教育のより一層の充実を図る。

②対象者

- ・外国人青年招致事業 ALT
- ・神戸英語指導助手事業 ALT
- ・小学校 外国語活動，外国語科担当教員
- ・中学校、高等学校 英語科教員

③実施回数

- ・「ALT 総会」 1日
- ・「ALT JOB トレーニング」 2日間
- ・「神戸市外国人英語指導助手・学校教員 指導力向上研修」 2日間
- ・ALT リーダー研修会
- ・ALT 地区別研修会
- ・新規 ALT 着任研修

④主な実施内容

- ・小，中，高等学校の教員と ALT による模擬授業を実施、及び意見交換
- ・英語科教員によるデジタル教材等の有効活用方法の紹介
- ・CELTA（英語指導者資格）を取得した ALT による実践指導講習
- ・民間機関による教授法講習
- ・ALT リーダーによる実践発表

⑤研修の評価方法

研修会参加者へのアンケート評価等により評価する。

(5) オンライン・オフライン研修実証事業（生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業）

①教員の英語力向上と授業力の向上にむけて、5領域を統合的に指導する力を育成するとともに、日本の英語教育において特に課題とされてきた発信力を強化し、効果的な指導法を身につけることができるようにする。

②対象者

小学校（小学校英語専科教員）、中学校・高等学校 英語科教員 希望者

③集合研修（オフライン研修）

「生徒の発信力強化のための英語指導力向上研修」1日

④主な実施内容

令和元年度の検証を踏まえ、教員の研修の機会を確保するため

⑤研修の評価方法

研修者の評価方法

研修開発から提供されるアンケート調査で行う。

(6) その他の研修

①教育課程研究協議会（小、中、高）

主事講話（全国主事会の内容を伝達）と実践発表。小学校は外国語担当者、中学校、高等学校は英語科教員対象。（年1回）

②英語専科教員連絡会及び研修会（小）

市内約70校で活躍する英語専科教員約35名を中心に、指導法や評価の研究を授業公開等の研修を通して行い、その成果を発信する。専科教員対象。（年間4～6回）

③小学校外国語活動・外国語授業公開（小）

市内小学校を6地区のブロックに分け、授業公開及び協議会、主事による指導助言を行い、新学習指導要領を反映した授業づくりを目指す。各校の外国語担当者、中学校英語科教員対象。（年間6回）

④中学校教育研究会英語部会主催地区別研究会（中）

市内を6ブロックに分け、公開授業及び研究協議を実施（年間12回）

⑤高等学校教育研究会英語部会主催研修会（高）

研究授業及び研究協議を実施

外部講師による授業改善に向けた講演会実施

⑥ブロック研究会（小中）

A L T配置ブロックを基本として、市内全小中学校を27ブロックに分け、授業公開及び協議会、指導主事による指導助言を行う。各ブロック所属の小学校教員、中学校英語科教員、A L T対象。（年間27回）

⑦先生のための英会話講座（小）

A L Tを講師としたスモールトークや発音の講座。小学校教員希望者対象。（年2回）

⑧イングリッシュサポーター研修会（小）

市内小学校で英語授業を支援するイングリッシュサポーターへの新学習指導要領や文部科学省教材についての研修。また、担任とA L Tをつなぐ役割について周知。

市内30校で活躍する19名のイングリッシュサポーター対象。（年3回、毎学期）

2 各研修の評価

(1) 研修会等への参加人数

①研究協力校における公開授業及び研究協議会等の実施

研究協力校が実施する公開授業及び協議会に参加した教員数

小学校外国語担当教員、中学校英語担当教員 200名（40名×5回）

- ②神戸市外国語大学と連携した研修会「小学校英語教育実践研修」
小学校教員 約 300 名
- ③小学校外国語活動・外国語担当者研修会
小学校教員 約 200 名
- ④外国語指導助手を対象とした研修の実施
外国語青年招致事業 ALT 約 200 名
神戸英語指導助手事業 ALT 5 名
小学校 外国語担当教員 約 130 名
中学校, 高等学校 英語科教員 約 100 名
- ⑤オンライン・オフライン研修実証事業（生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業）
高等学校英語科教員 約 10 名
中学校英語科教員 約 25 名
小学校英語専科教員 約 80 名
- ⑥その他の研修
教育課程研究協議会（小学校約 200 名、中学校約 100 名、高校約 20 名）
英語専科教員連絡会及び研修会 約 30 名
小学校外国語（活動）授業公開 約 180 名（30 名×6 回）
中学校教育研究会英語部会主催地区別研究会（6 ブロック×2 回）
高等学校教育研究会英語部会主催研修会研究授業及び研究協議（約 20 名参加）
高等学校教育研究会英語部会主催研修会講演会（約 30 名参加）
ブロック研究会 約 270 名（10 名×27 回）
先生のための英会話講座 約 60 名（30 名×2 回）
イングリッシュサポーター研修会 約 30 名（10 名×3 回）
- (2) 研修参加者へのアンケートの実施
研修受講者に研修前と研修後にアンケートを実施し、研修受講者による授業改善の効果を検証する。
- (3) 授業改善の状況の把握及び検証
国が実施する「英語教育実施状況調査」及び「全国学力・学習状況調査」、「神戸市学力定着度調査」を活用し、研修受講者勤務校における英語授業の改善状況を検証する。

